

聴覚投映法の反応に関する一考察

—内向・情緒不安定タイプ者の場合—

松川 春樹

筆者はこれまで、Skinner (1936)によって考案され後に用いられなくなっていった聴覚投映法の有用性や可能性について、主題統覚検査のような物語作成の手続きを採用して研究を行ってきた。本研究では、2種類の刺激(有意味の音声を含むものと含まないもの)による聴覚投映法をそれぞれ大学生・大学院生60名(男女とも30名)の参加者に実施した中から、村上・村上(2001)の2ポイントコードにより内向・情緒不安定タイプ者を3名抽出し、個別の反応について質的に検討した。その結果、内向・情緒不安定タイプ者は連想過程が優位の個性的な物語を作り、登場人物に同一化して語る事が多く、総じて物語も反応時間も長いことが示唆された。ただし、本研究には刺激の提示方法や参加者の人数において限界があるため、今後さらに知見を積み重ねていく必要がある。

キーワード：聴覚、投映法、Big Five 性格検査、内向・情緒不安定タイプ者

I 問題と目的

聴覚投映法(Auditory Projective Technique; 以下 APT)は、Skinner (1936)によって考案された verbal summator に始まる一種の投映法である。筆者は、主題統覚検査(Thematic Apperception Test; 以下 TAT)のように、聴覚刺激をもとに作成された物語から被検者のパーソナリティを読み取る手続きを採用し、葛藤的な会話場面を中心とした刺激(以下、音声刺激)と、環境音や音声以外で人が発する物音を中心とした刺激(以下、非音声刺激)を独自に作成し、APTの有用性や可能性について研究してきた(松川, 2007)。松川(2009)では、Big Five やロールシャッハテストとの関連を踏まえ、それら2種類の刺激の中から有用性が示唆されたものを8個ずつ選定し、両種類を含んだ刺激セットを構成している。また、松川(2011)では、16個の聴覚刺激に対して①形容詞対による印象評定、②微小部分要素のチェックリスト、③音響分析を行ない、刺激そのものの特徴を明らかにしている。①では因子分析により「肯定的情緒性」「力動性」「簡明性」「異質性」「空間性」という5因子が抽出され、③では「音の長さ」「音の大きさ」「音の高さ」の3側面から分析された。②では、聴覚刺激を要素に区分したものを部分要素、中でも物語に取り込まれる割合が10%に満たないものを微小部分要素とし、それらが参加者に聴き取られる程度が明らかになった。さらに

松川(2012)では、物語を内容面・形式面・認知面の諸指標により評定した結果を整理することで、各刺激における反応の特徴を明らかにしている。いずれも対象者が60名程度であるなど限界はあるものの、刺激と反応の特徴が明らかされ、反応を個別的に解釈する際の手がかりが得られてきている。

心理臨床のアセスメントにおいては、心理検査などによって得られた情報を適切につなぎ合わせるにより、単なる所見の列挙ではなく血の通った人物像を描き出すことが求められている。こうした要求に対し、これまでの一連の研究では APT 指標と Big Five の関連がほぼ1対1の組み合わせで個別に検討されており、パーソナリティの全体像や個別の反応を総合的に見ることはできていない。指標には内容・形式・認知、あるいは自己・他者など分析の大枠は設定されているものの、それらから得られる情報をどのようにまとめられるのかという点はまだ研究の途上にある。他方、既存の投映法や質問紙法ではこの点について多くの研究がなされてきている。代表的なものとしてはロールシャッハ・テストにおける片口法の修正 BRS や RSS, 包括システムの特異指標、エゴグラムにおけるパターンなどがあり、また、Big Five では特徴的な値を示した2因子を組み合わせた2ポイントコードによって、より総合的なパーソナリティ解釈が可能となっている(村上・村上, 2001)。本研究の APT は TAT に近いためロールシャッハ・テストほどの記号化や数値の集約は馴染まないと思われるが、複数の指標により浮かび上がってきた所見をいかに統合するかという点は非常に重要である。

以上から、本研究では Big Five の2ポイントコードによって抽出されたパーソナリティ・タイプ者が APT において示す特徴を明らかにすることを目的とする。その特徴と2ポイントコードを照らし合わせるにより、APT における統合的解釈の可能性も見えてくることが期待される。2ポイントコードとしては、パーソナリティ研究の中でも古くから取り上げられてきたもので、より基本的なパーソナリティ特性と考えられている外向性と情緒安定性(神経症傾向)の2因子を取り上げる。この2因子によるパーソナリティ・タイプは、各因子の高低の組み合わせにより「自信満々の人」とされる外向・情緒安定タイプ、「激情家」とされる外向・情緒不安定タイプ、「穏やかな人」とされる内向・情緒安定タイプ、「孤独で神経質な人」とされる内向・情緒不安定タイプの4タイプに分類される。本研究では、心理臨床的な観点から情緒不安定に関連する2タイプに焦点を当て、該当者数名のプロトコルの特徴について質的に分析を行なう。

II 方法

以下に示す2つの実験研究(松川, 2007)の中から、松川(2009)によって選定された各8刺激に関するデータを抜き出して分析を行なう。

1 実験1 一音声刺激による APT

実験参加者 A 県の国立・私立大学の大学生・大学院生60名(男女30名ずつ、平均年齢20.50歳(SD=1.34))を対象とした。

質問紙 村上・村上(2001)の主要5因子性格検査を採用し、全70項目に対して「はい/いいえ」の

2件法で回答を求めた。

聴覚刺激 松川(2007)では、独自に録音した音声と市販の効果音集の音を組み合わせて作成された17個の刺激を採用した。その後、松川(2009)は、Big Five との関連が認められた APT 指標の出現率が低いものや、APT 指標の平均値が偏っているものを除き、提示順序を含む全体のバランスを考慮して8個の刺激を選定しており、本研究でもこの8刺激を採用した(表1)。

手続き 実験者と参加者は机を挟んで90度の位置に座り、2つのスピーカー(WAVIO GX-D90)を通して聴覚刺激を1つずつ提示した。坪内(1996)によるTATの手続きを参考に、1つの音に対して1つの物語を作ってほしいことと、①音の場面がどのようなものであるか(現在)、②その場面に至るまでにはどのようなことがあったか(過去)、③その場面の後はどのようになっていくか(未来)、④登場人物はどのような気持ちでいるかの4点を織り交ぜること以外は自由に作って構わないことを教示し、希望すれば何度でも音を聞けることも伝えた。参加者が上記の4点に関して自発的に語らないときには、実験者が質問を通して促した。なお、後で詳しく分析するため、参加者の了承を得た上でICレコーダーで実験の様子を録音している。

表1 音声刺激の順序と内容および長さ

刺激	内 容	長さ
1	静かな場所で、男性A「例の件、うまく行ったらしいな」、男性B「ああ、少々てこずったがね」、男性A「ふん、さすがだ」、男性B「ありがとう。こっちはほっと一安心だよ」。	10秒
2	いくぶん静かな場所で、女性「そんなことしちゃいけないって、いつも言ってるでしょ!」、女の子「だって…」、女性「もうしないって約束する?」、女の子「はい」。	14秒
3	土砂降りの雨の中、1台の車が通り過ぎ、女性「やっぱマズイって…」、男性「お前、今さら何弱気になってんだよ。もうやるしかないって分かってるだろ? さあ、行くぞ!」、女性「あ、ちょっと待ってよ…」。	14秒
4	公園で子どもたちが遊んでいる中で、男性「何ですてねんの? ちゃんと言わなきゃ分かんないだろ?」、男の子「別にすねてなんかないよ…」、男性「言いたいことあるんだったらちゃんと言いなさい?」、男の子「うん…」。	15秒
5	大勢の客で賑わっているレストランで、女性A「…そっかあ…そりゃ辛かったね…」、女性B「うん…」、<携帯電話の着信音>、女性A「あ、ちょっとごめん」、<携帯電話に出る>、女性A「あ、はいはい、どうしたの?…え、うっそお!?…へえー…うん…うん、うん分かった! じゃあ明日ねー」、<ブランク>。	34秒
6	静かな場所で、男性A「お前は何をしたのか分かっているのか!」、男性B「はい、でも、あれは…」、男性A「言い訳を聞きたいんじゃない! こんなことになって…お前どうするつもりなんだ!」、<ブランク>。	12秒
7	高架下で、女性A「それよりさ、どこ行こっか?」、女性B「どっか遠いところ…どうせなら海がいいな」。	25秒
8	静かな場所で、女性A「あ、私こっちだから」、男性「あ、うん、じゃあねー」、女性B「またねー!」、女性A「また!」、<足音>。	13秒

注 この内容は実験者の想定であり、実際には聴いた者によって意味づけは異なる

分析方法 参加者が作った物語について、内容・形式・認知の3側面から広く分析を行なった(表2, 表3)。指標としてはTATの指標に加えて、「標準的な年齢/性別設定からのずれ」や「背景音に対する情緒の意味づけ」、「刺激の追加提示回数」、「登場人物の独特な位置関係」などAPT独自の指

標も取り入れた。TATの指標に関しては鈴木(1997)を参考にし、「語りの様式」や「微小部分要素の取り込み」はAPTに合わせて変更や修正を加えた(松川, 2012)。

表2 物語の評定に用いた指標

分類	音声刺激に対する指標	非音声刺激に対する刺激
内容面	自己の内界に向ける関心、自己に向ける感情(言及/性質/両価) 対人関係に向ける関心、他者に向ける感情(言及/性質/両価) 父親(的人物)に向ける感情(言及/性質/両価)、母親(的人物)に向ける感情(言及/性質/両価) 刺激外の人物の導入、導入人物の性質(言及/性質/両価) 背景音に対する独特な意味づけ、背景音に対する情緒的意味づけ(言及/性質/両価) 結末の性質(性質/両価)、攻撃的内容、自己言及、主観的印象 同性に向ける感情(言及/性質/両価) 異性に向ける感情(言及/性質/両価) 標準的な年齢/性別設定からのずれ 独特な人物設定	導入人物を主人公とする物語 動物の導入
形式面	初発反応時間(秒)、刺激の追加提示回数 語りの様式(移入形式/会話形式/物語形式)、複数の物語	反応の失敗/拒否
認知面	微小部分要素の取り込み、部分要素に対する標準的意味づけからのずれ 登場人物の独特な位置関係 空間の追加/区切	部分要素の取り込み 触覚情報の性質(言及/性質/両価)

表3 評定の整理方法

評定方法	数値への変換方法	該当指標
時間や回数を計測	変換なし	初発反応時間、刺激の追加提示回数
「ある/ない」「該当する/該当しない」の2件法	「ある ない」「該当する/該当しない」を「1/0」に変換	自己の内界に向ける関心、対人関係に向ける関心(非音声)、 刺激外の人物の導入、導入人物を主人公とする物語、 標準的な年齢/性別設定からのずれ、独特な人物設定、 動物の導入、背景音に対する独特な意味づけ、 攻撃的内容、自己言及、主観的印象、 語りの様式、複数の物語、微小部分要素の取り込み、 部分要素に対する標準的意味づけからのずれ、 登場人物の独特な位置関係、空間の追加/区切
	部分要素ごとに「該当する/該当しない」を「1/0」に変換し、1つの刺激の中で合計	部分要素の取り込み
「肯定的(強い)/どちらでもない/否定的(弱い)」「両価的」「言及なし」の5件法	言及 「言及なし以外/言及なし」を「1/0」に変換 性質 「肯定的/どちらでもない/否定的」を「+1/0/-1」に変換 両価 「両価的/両価的以外」を「1/0」に変換	自己に向ける感情、対人関係に向ける関心(音声)、 他者に向ける感情、父親(的人物)に向ける感情、 母親(的人物)に向ける感情、同性に向ける感情、 異性に向ける感情、導入人物の性質、 背景音に対する情緒的意味づけ、結末の性質、 触覚情報の性質

2 実験2—非音声刺激による APT

実験参加者 A 県の国立大学の大学生・大学院生60名(男女30名ずつ, 平均年齢22.30歳(SD=1.73))を対象とした。

質問紙 実験1と同様に, 村上・村上(2001)の主要5因子性格検査を採用した。

聴覚刺激 松川(2007)では, 独自に録音した音と市販の効果音集の音を組み合わせで作成された14個の刺激を採用した。その後, 松川(2009)によって, Big Five やロールシャッハ・テストの指標との関連が認められた APT 指標の出現率が低いものや, APT 指標の平均値が偏っているものを除き, 提示順序を含む全体のバランスを考慮して8個の刺激が選定されており, 本研究でもこの8刺激を採用した(表4)。

手続き 実験1と同様の手続きで行なった。

分析方法 実験1と概ね同様に分析を行なった(表2, 表3)。ただし, 「対人関係に向ける関心」や「導入人物を主人公とする物語」, 「動物の導入」, 「触覚情報の性質」など, 本実験で用いた刺激の特徴に合わせて指標を変更した(松川, 2012)。

表4 非音声刺激の順序と内容

刺激	内 容
1	都会の交差点で車や人々が往来する中, ハイヒールや革靴で歩く足音が聴こえてくる。最後にハイヒールで走る足音が近づいてきて止まる。
2	静かな場所で, 冷蔵庫の微かな唸りが聴こえる。電気のスイッチを操作する音がして, 木製の床を靴で歩く足音と共にゆっくり移動していく。衣擦れの音の後に, ベッドに倒れ込む音が聴こえる。
3	走行する電車内で, 乗客の小さなざわめきが聴こえる。約20秒後, 女性が2度深いため息をつく。最後に踏み切りの音がかすかに聴こえてくる。
4	静かな地下の廊下を歩く2人の足音が近づいてきて止まる。鍵を開け, 軋むドアを開閉した後, 再び鍵を閉める。
5	地響きと荒々しい波の音が聴こえる。砂利道を足を引き摺りながら歩く足音が途中で止まり, 動物の羽音や鳴き声が聴こえてくる。
6	静かな場所で, 衣擦れの音が聴こえる。
7	静かな場所で, 心拍が聴こえる。
8	ひぐらしや鳥の鳴き声と沢音が聴こえる。

注1 刺激の長さはすべて30秒である

注2 この内容は実験者の想定であり, 実際には聴いた者によって意味づけは異なる

注3 刺激のサンプルを Web (<http://www.sed.tohoku.ac.jp/lab/clipsy/amb/index.html>)で公開している

Ⅲ 結果

1 Big Five の得点の算出とパーソナリティ・タイプの分類

村上・村上(2001)に従い, 外向性と情緒安定性の2因子について T 得点を算出した(表5)。なお, 2因子間で Pearson の積率相関係数を算出したところ, どちらの実験においても有意な相関は認められなかった(実験1では $r=0.07$; 実験2では $r=0.19$)。両因子において, T 得点が60点以上あるいは40点以下に該当した参加者を抽出した結果, 各パーソナリティ・タイプにおいて0-4名ずつとなっ

た(表6, 7)。実験2において外向・情緒不安定タイプの該当者がいなかったため、以下では内向・情緒不安定タイプに焦点を絞って見ていくこととする。

表5 各実験における Big Five の平均値と標準偏差

	実験1		実験2	
	平均値	(標準偏差)	平均値	(標準偏差)
外向性	48.33	(10.02)	48.17	(8.19)
情緒安定性	46.85	(8.30)	48.98	(8.91)

表6 実験1におけるパーソナリティ・タイプの分類

		情緒安定性	
		60点以上	40点以下
外向性	60点以上	外向・情緒安定タイプ 女性1名	外向・情緒不安定タイプ 男性1名, 女性1名
	40点以下	内向・情緒安定タイプ 男性1名	内向・情緒不安定タイプ 男性2名, 女性2名

表7 実験2におけるパーソナリティ・タイプの分類

		情緒安定性	
		60点以上	40点以下
外向性	60点以上	外向・情緒安定タイプ 男性1名, 女性2名	外向・情緒不安定タイプ 該当者なし
	40点以下	内向・情緒安定タイプ 男性1名, 女性1名	内向・情緒不安定タイプ 男性1名

2 内向・情緒不安定タイプ者の反応

以下では、内向・情緒不安定タイプに該当した参加者の中で、実験1において特徴的な反応が得られた男女1名ずつと、実験2における男性1名の反応を示す。なお、<>内は実験者による発言を示し、反応については内容を損ねない程度に簡略化し、個人情報や固有名詞等は改変している。

(1)実験1における内向・情緒不安定タイプ者の反応

1) 参加者①男性

第1刺激 男の人が2人出てくるんですけど、例のものっていうのはたぶん、提出が間近に迫ったレポートじゃないかと思います。何とか間に合ったって言った人の方は、他の人のレポートを写して(笑)、何とか提出して「良かったね」っていう。この後はまたたぶん繰り返すんじゃないかと、レポートを提出間近になって焦って、「大変だなー」っていうのを繰り返す感じですかね。<それはどちらの人のことですか?> 例の件が片付いたって最初にしゃべった男の方ですね。もう片方はたぶんレポート貸す立場なんじゃないかと思います。<その人はどう思ってますか?> またこいつき

と繰り返すだろうなって思ってると思います。

第2刺激 娘は外に落ちてる葉っぱとかを拾い集めてコレクションにしちゃうことがよくあって、でも母親としてはそれは家の中が汚くなっちゃうから、やめてほしいから怒るんですけど、やっぱり娘としてはよく分からないから、「何できれいな葉っぱなのに集めちゃいけないの?」って理解できないっていうふうに戸惑ってる。母親はきれいな葉っぱがほしいっていうのは分かるけど、やっぱり「汚れちゃうことも考えて」って思ってる、それを分かってほしいからこう言ってる感じですね。この後は、やっぱり葉っぱを集めるのが止められなくて、またお母さんに怒られちゃうって感じですね。

第3刺激 この2人は雨の中、駆け落ちでもするのかなって感じの勢いですね。女の人はすごいっていうか半分くらい躊躇し始めてるけど、男の人はもう「やるしかない」って感じで。たぶんこの後は、きっと2人一緒に駆け落ちしてどっかで幸せに暮らすんじゃないかと思います。<女の人の方は半分くらい躊躇していたんですね>雨のせいでちょっと動きが鈍くなったから、多少冷静に考える時間ができてしまったんだと思います。勢いで出てきたのはいいんだけど、ふっと親の顔とか浮かんできて、「ほんとに良かったのかな」っていう。<男の人の方はもうやるしかないって>「これからは2人で生きて行くしかないな」っていうふうに考えてる。

第4刺激 3人きょうだいで1人だけ仲間外れになっちゃってる感じで、お父さんそれ分からなくて、その子どもじゃなくて2人で遊んでる子どもの方に参加しちゃったから、余計自分が取り残された感じになって。子どもは「まあ1人でもいいかな」ってすねちゃって、「何でお父さんは分かってくれなかったんだろう」って、残念っていうか悔しいっていうか悲しいっていうか。お父さんはそのことに気づいて、でも家族なんだからそういうこともとはっきり言ってもいいんじゃないかなってことを伝えるために、最初の方に「何ですねてるんだ? 言いたいことがあるならはっきり言え」って言ってる感じですね。この後は、すねてる子どもが泣いちゃって、お父さんはどうしようもなくその場に佇んでるっていう感じですね。<どうしようもなくその場に佇んでる>「何でこんなにはっきりしないんだろうなあ」って、泣くだけじゃなくて言わないと伝わらないから「ちゃんとしゃべってほしいなあ」って思ってる感じですね。

第5刺激 「辛かったね」って言ってる女の人は、たぶん相手の女の人がペットか何か死んだのがすごい気に病んでたんだと思うんですけど、それを慰めてはいるんですけど、その途中で別の友達から電話がかかってきて、その電話では暗い声出すと相手に心配かけちゃうから、明るく気持ち変えてしゃべったんだけど、それが逆にペットが死んじゃった女の人にとって、「ほんとに私のこと分かってくれるのかな」って疑ってる感じですね。でも、ほんとにそれは些細なことだったから、その後やっぱり慰められて慰めて、別れて帰るみたいな感じですかね。<2人の気持ちについても少し>慰めてる女の人は「早く元気を出してほしい」っていうふうにずっと考えてるし、慰められてる女の人はちょっと途中で「ん?」って思うところもあったけど、やっぱり慰めてる女の人のことを、「いなかったらもっとへこんでたろうなあ」っていうふうに思って、感謝している。

第6刺激 これは、さっき(第1刺激で)レポートを出した人が丸写ししたのがばれて単位を落と

してしまって、レポートを貸した人にまで連帯責任でその人も単位を落としちゃって、それで怒ってるのと怒られてる立場になったんだと思います。結局この後は、お互いっていうかレポートを貸してた男の人の方が不利益を被ってしまったから、「お前とはもう友達はやってられない」ってことで絶交みたいな感じですね。<もう1人の方はどう思っていますか?>「申し訳ないなあ」っていうのと、自分だけじゃなく友達にまで迷惑かけちゃったから、「何言われても何されてもしょうがない」っていう思いですね、それだけでいっぱいです。

第7刺激 出てくる女の2人はたぶん高校か大学の受験に失敗して落ちちゃって、それで傷心旅行っていうか目的もなく行こうとしてたんですけど、最終的に、海に行きたいって言った人の方がすごい海が好きだったのかな、これから海に行ってた「ポーっとうしろかなあ」って感じですかね。この後は結局海に着いて、海しばらく眺めて、海の大きさっていうか偉大さに自分たちが悩んでることがいかに小さなことかっていうのを感じ取って、「これから生きて行けば何とかなるんじゃないかな」っていうふうに考えて、いろんな道を考えつつ生きて行くんじゃないかなと思います。<大きな海を見て自分たちの悩みがいかに小さなことかって感じて>別に死ぬほどのことでもないっていうか、大学とか高校に落ちたくらいで自分自身の価値は何も変わらない訳だし、生き方次第で全然変わるんじゃないかなっていうふうに考えて。<お話いただいたのはどちらの気持ちですか?> 両方ですが、どちらかというとも最初に「海に行きたい」って言った方の人の心境ですね。

第8刺激 男の子1人と女の子2人、たぶん友人だと思んですけど、いろんな雑談をしながら学校の帰りで、「ここで私はお別れだから」って言って2対1に分かれて帰って行く感じですね。男の人はその離れた女の子が好きで「もっと話したいな」って思ってるけど、「ここで行くと変に思われちゃうかな」って引いてる感じで、男の子と一緒に帰ることになってる女の子はその男の子が好きで、1人で帰った女の子の方は男の子のことが好きなんだけど、別の女の子がその男の子を好きなこと知ってるから、一緒に帰りたいけどわざと「別の道を帰ろうかな」っていうふうに、考えてる人たちです。この後は、男の人は自分の好きな女の子の方に告白をしようと思うんだけど、その前にもう1人の女の子に告白されてしまって、すごい悩んでしまうっていう結果になるんじゃないかと思えますね。<すごい悩んでしまう>告白された女の子を傷つけないけど、自分の気持ちに嘘ついて付き合えないし、自分の好きな人はその女の子だから、「言うべきなんだろうかなあ。でもそのことによって女の子2人の友情を壊すのやだしなあ」っていうふうに悩んでる状況ですね。

2) 参加者②女性

第1刺激 何か仕事の一場面のようにも聞こえたんですけど、もっと怪しい感じもして(笑)・・・その怪しい路線の方を取ると・・・何かをお金で解決しようとして(笑)、例えばさっきしゃべってた2人は結構お偉いさんで、「これがばれたらもう会社は終わりだ」みたいな不祥事がばれて。その不祥事ってというのが裏取りみたいな(笑)、それを隠すためにその事件を知ってる人に口止め料を送ったり、その人を不当に解雇したりして、どうにかこうにか収めたっていう場面。でも、そんなことがまかり通る訳もなく、きっと最後には悪事みたいなものがばれて捕まったりすると思うんですけど(笑)・・・でも、この2人は社長の次ぐらいのポストの人で(笑)、会社をいよいよ自分

たちのものにしてしまおうとか思って働いた悪事で、結局最後はその上の社長さんとか会長さんにばれて(笑)、「何だね君たちは?」みたいな感じで。<出てくる人はどう思っていますか?> さっき出てきた2人の中にも上下関係があって、上の方の人は昔から苦勞ばかりしてきた人で(笑)、「俺が絶対上の人間になってやる」みたいな信念とか執着があって、執着し過ぎて悪いことをしてしまった感じ。下についている人は、「とりあえず強そうな人についていれば間違いない」みたいな考えの持ち主。自分が甘い蜜を吸うために(笑)。ちょっとずる賢い感じの人で(笑)、その人に協力してたっていう感じです。

第2刺激 たぶん注意されていたことは野良猫に餌をあげてることで(笑)、その子にしてみれば、「猫がお腹空いてるんだろうな」って思って、自分のおやつとかをちょっと分けてあげたりしてたんだけど、その子の家は団地だから猫が飼えないみたいな感じで。お母さんにしてみたら、「野良に餌をあげるなんて止めなさい!」っていう気持ちで(笑)、注意をして。お母さんもその子が別に悪いことをしているっていうよりも、「まあしょうがないんだけど」っていうぐらいの気持ちで注意をしていて(笑)。たぶんその団地の近くにおばあちゃんが1人で住んでいる家があって、きっとその子はそのおばあちゃんの家で猫を届けに行くと思います。預かってもらって、毎日そのおばあちゃんのとこに行き餌をあげたりして、ちゃんと育てて。何年かしておばあちゃんが亡くなったときに、「実はね、お母さん」みたいな感じで(笑)、打ち明けて。お母さんもその子の優しさに触れて、ちょっと態度が柔らかくなるというか(笑)。<子どもの気持ちについてももう少し> お腹を空かせている猫がかわいそうで仕方ないっていうのと、やっぱり動物だから可愛くて(笑)、つい撫でてしまったりして。団地で飼えないからっていう理由だけじゃそれを止める理由にはどうしてもならなくて。「お母さんは何で怒るんだろう?」とっていて、だから近所の優しいおばあちゃんに預かってもらってっていうふうに、その子なりに猫を守ろうと可愛がろうとがんばってると思う。

第3刺激 最初に何か悪いことでもするのかなって思ったんですけど、男の人の声掛けが結構優しく聞こえて、何かに対して勇気を出そうとがんばってるのかなって感じて・・・何をやろうとしてるのか分かんないんですけど、その女の子にとっては一大決心するような出来事があった。その子は普段そんなに真面目な子じゃないんだけど、そのことに対しては「根性見せてがんばってみようかな、私らしくないけど」みたいな感じに思ってた(笑)。その男の人が応援して後押ししてくれて、「ほら、行って来いよ」って感じで、「よしじゃあ」って女の子は勇気を出して、職員室かどこかに行って「先生、私やっぱりこうするよ!」みたいな、何か新たな決心を表明して。きっとそれは周りから見たら、まわりくどいことだったりとか、しょうがないことなんだけど、その子にとっては大事なことで。「だから私、1人でも頑張るよ!」みたいな(笑)、そういう決心を先生に言いに行ったところです。その女の子はすごい不安を抱えていて、その決心をする前までは本当にどうしようか迷っていて、もうほとんど止めたぐらいの気持ちに傾いているんだけど、そのことをどうにかしてクリアしないとその子は、その子らしく生きれないぐらいの(笑)、一大決心。それが分かってるからこそどうしても諦め切れなくて。でも止めたぐらい周りの風当たりが強いようなことで、

すごい迷っている。男の人はその子を普段から見守ってくれている人みたいな感じで、一緒に悩んであげたり相談に乗ってくれたりして、その子がどうにか決心できるように、勇気を出してがんばれるように、いつもアドバイスしてくれていた人みたいな感じです。

第4刺激 お父さんが息子に新しいスニーカーを買ってあげて、前々から「スニーカーがほしい」って言ってたから「これで喜ぶぞ」と思って買ってあげただけど、実はそれがすごい時代遅れであんましかっこよくなかった。その男の子はそのスニーカーが全然気に入らなかったんだけども(笑)、「お父さんがせっかく買ってくれたんだしな」って思って露骨に文句が言えなくて困っていて、すねるしかないみたいな感じになっているんだと思います(笑)。お父さんも、喜ぶだろうって思ってたので(笑)、息子がそんな反応でちょっと不満に思っていて、「何だよせっかく買ってやったのに、何が不満なんだよ」って思ってるんだけど、子どもがなかなかしゃべろうとしないので困っているって感じ。<この後どうなっていますか?> その子はそのスニーカーを嫌々ながらも履き続けて、周りの子にも「何だよそれー」って言われながらも(笑)、「いいんだよ、お父さんが買ってくれたんだから」とか言いながら履き続けていくと思います。

第5刺激 「そりゃ辛かったね」と言われていた女の子は長く付き合っていた彼氏と別れて(笑)、しばらく学校にも行けなくらいショックを受けていて。話を聞いていた女の子はその子の一番の友達で、普通に元気に学校へ通っていて、友達も結構多い子で・・・彼氏と別れてショックを受けていた女の子はたぶん一週間ぐらい学校を休んでいて、電話でその子と毎日連絡は取っていたんだけど、どうして別れたかとか、こういうふうに辛かったとか具体的なこととか自分の気持ちの深いところまであんましゃべれなくて、その子に「今日はこんなことしたよ」とか(笑)、そういう報告ぐらひはしていたんだと思います。もう一人の女の子は結構その子のことを気にしていて、「彼氏と別れたんじゃあしょうがないよな」って感じ(笑)、その子と付き合ってた。きっとその子は毎日「いいから学校来なよ。皆待ってるよ」みたいな感じでその子を励ましている(笑)。<出てくる人の気持ちについてももう少し> 彼氏と別れた子はまだそんな、きっぱりと立ち直った訳じゃないんだけど、「ずっとこのままにいる訳にもいかないかな」っていう気になっちゃって(笑)、その子と会って外で話をする気になったみたいな感じ。たぶんそれまではもう思い出すのもしゃべるのも辛いくらいショックだったから、ずっと家に引きこもってて。その友達の女の子は、もしかしたら間違っただけの子は自殺でもしちゃうんじゃないかっていうぐらい心配をしていて(笑)。たぶん彼氏と別れてからは、その友達の女の子が、彼氏と別れちゃった子の一番の心の支えみたいになってて。

第6刺激 先生と生徒なんですけど・・・その男の子は何か良いことをしようとしたんだけど裏目に出てしまって・・・ピツリくる出来事が思い浮かばないですけど・・・ああそうだ、その人はバレー部にいて、エースアタッカーみたいなよくできる奴が、例えば万引きだったりとか部活全体に関わるような、その人の大会出場停止とかに関わるような悪いことをしてしまって。でも、さっき謝ってた男の子は結構下っ端の子なんだけど、「こいつがいなかったらうちの部は大会に出れないんじゃないかな」って思って、その子を庇うような形で自ら濡れ衣を被って、それを今顧問の先生に怒られている。だけど理由を説明することもできずに困っている状態。その顧問の先

生も本当は、エースの人は普段からちょっと素行不良な感じで(笑)、「たぶんこいつはあいつのことを庇ってるんだな」というのが分かってるんだけど、その子ががんばって体面的に取り繕おうとしているの見てもう「どうしたらいいんだ」と(笑)、悩んでいる感じです。<この後どうなっていますか?> 結局、そのエースの子もやっぱり良心がとても痛んで(笑)、そのまんまのんきな顔で試合に出るとかできなくて、先生のところに「実は俺がやったんです」みたいな感じで謝りに行って(笑)、先生も「そうかそうか」と聞いてくれて(笑)、「これからそういうことはしないように」みたいな注意くらいはするんだけど、「何で黙ってたんだ」とか怒るようなことはせず、生徒たちの気持ちを汲んで(笑)。結局大会には出ないで、「やっぱりそういう出来事があったからには責任は取らなきゃいけないよ」という感じで、また別なところで一から鍛え直そうみたいな感じで(笑)、新たなスタートを。きっと、次の年の大会には万全な感じで大会に出場できると思います。

第7刺激 2人は仲の良い友達同士で、ちょっと前までは結構バカっぽい話をして(笑)。けど、「海に行きたいな」と言っていた女の子の方には、嫌なこととかが色々あって。例えば、お家があまくいっていないとか、受験勉強が思うようにいかないとか、「何でこんな勉強ばかりしてるんだろう?」って結構どつぼにはまっています。たまたまその女友達が「遊びに行こう」みたいに誘ってくれて、家にもいたくないから「じゃあ出かけようかな」という感じで出かけて、気分転換に海が見たいみたいになりました・・・片っ方の子は特に進学とか考えてなくってもう就職する意志とかが固まって、結構サクサクと物事を乗り切っていく子なので(笑)、就職もパッと決まってあんまり悩みごとを抱えることもない気がします。<この後どうなっていますか?> その女の子は(笑)、もう本当に受験勉強とかを投げ出して、家の中にもいたくないみたいな感じになって、外に出歩いたりとか夜遊びをしてみたりとかするんだけど、そうしているうちに自分のやりたいこととかが段々決まってきて、ちゃんと勉強にも取り組めるようになっていくと思います。

第8刺激 男の子と女の子2人で帰ってて、曲がり角で女の子1人だけが別方向に行って、男の人と女の人、一組は同じ方向に帰っていく。そっちはカップルで、もう1人は独り身で(笑)。その3人はとりあえず友達なんだけども、その独り身の女の子は彼氏のいる友達の方をとっても羨ましがっている。「いいなあ、あの子は可愛いし、彼氏もいるし、部活もそこそこできて、成績も良いし」みたいな感じで(笑)、結構羨ましいところが一杯あって。1人で寂しく帰っているみたいな感じです(笑)・・・でも、とりあえずその女の子は、美術部か合唱部あたりに入っていて(笑)、そのクラブで結構いい成績をあげるんじゃないかなって思います。絵描いたらそれがコンクールに入賞したりとか、合唱で賞をもらったりとか、何かそういうところで力を発揮するような気がします。

(2)実験2における内向・情緒不安定タイプ者の反応

1) 参加者③男性¹

第1刺激 主人公は男の人で、B市の駅前の人がいっぱいいるところで待ち合わせをして、相手は20年前に離れ離れになってしまった婚約者で、その婚約者とはすごく好き合ってたんだけど、戦争という波が2人を引き裂き、自分は戦争のために現地へかり出されてしまって。戦争が終わって、もう自分は死んだっていうふうに本土には伝わっているけど自分は生きていて、自分はやっぱり本土

に帰ってきたんだけど、もう焼け野原で全然状況が違う。その女の人に会いたくてももう会えない。そのときにふと思いついたことがあって、「20年後の何月何日にこの場所で会おう」という約束をその婚約者としていて、だから自分は一生懸命に戦争が終わってからもその約束だけを心の支えに生きてきて、ついにこの日、自分も年は取りましたと、白髪とか、もうちょっと禿げてきて若さはないし恥ずかしいけども、「やっと会える、嬉しいなあ」とって、街も復興してきたB市の駅前で待ってるんです。もう戦争を忘れたかのように人々は歩き回る、「ああ、B市の街も変わったな」とって思いながら歩いて行くと、遠くから足音がいろいろ聞こえてくる。「あ!あのハイヒールの音はあの人かなあ。あ!こっちの靴の人あの人かなあ」とってもう足音皆がその人に思えてしまう。「あの方は20年経ってどんなふうになってるかなあ。ちょっとは皺も増えちゃったかなあ」とかっているいろいろな考えながら待っている。その後、女の方は現れないんじゃないですかねー。でも目の前に、20年前の婚約者が現れるんですよ。「何で?年取ってない。自分はもうオッサンになってんのに、何だこの若い女の方は!?」。で、自分の名前を呼ぶ、「どうして知ってるんですか?」、「私は誰々の娘です」とってことで、その婚約者は死んでしまったけども、その婚約者は別の人と結婚してしまって娘が生まれたと。婚約者からしたら死んだと思ったから仕方なく結婚したんだけど、自分の心残りはその20年後の約束だったから、娘に「何年の何月何日にどこどこに行っておいてあげてちょうだいね」とって遺言みたいに託して、死んでしまったっていう、そんな話ですかね。「覚えててくれたんだ。娘にこの約束を託してくれたんだ」とって切ないけどほんわかする良い話です。

第2刺激 えー!これものすごい助平な親父しか思い浮かばなかったでしょう・・・思春期の娘がいる父親で、「最近娘には彼氏ができたらいい。お母さんには話をしているのに、どうして俺には何も言ってくれないんだ!これは何としても話を聞かないといけない。娘は今自分の部屋にいるから話を聞いてやろう。よし、娘の部屋に行くぞ」。娘の部屋から何やら娘以外の男の声がする。「部屋に誰かいるな?!これは何としても、あ!あんなとこに換気扇が!よし、あの換気扇から忍び込んでやる」みたいになって、換気扇の中に入ってこう(這い進む gesture)娘の部屋の上まで来て、「あ!娘と彼氏がいちゃついているぞ!何だあの野郎!」っていうときに思わず、ポケットに入れていた携帯電話を落としてしまって、ガタンッって音がして、娘は「あ!誰かいる!」っていうそこまでのシーンですかね。その後は、娘にばれてしまったんでお父さんは渋々出て行って、部屋に入って「この男は何なんだ?」って言う。この彼氏は話してみれば案外真面目な青年で、「何だわざわざ忍び込んでみなくてもちゃんと普通に話をすればよかったな」とっていうとこまでですかね。

第3刺激 何だ今のは・・・女の方がすごい満員電車で乗れないんですよ、ラッシュアワーの時期で自分も早く電車に乗って帰りたいんだけど、か弱い女の人だし力もないし、あんまり自分の意見を言える人でもなくて、乗りたいんだけど、後ろからおばちゃんなりオッサンなりサラリーマンに追い越されて、「ああ乗れないでしょう。この電車に乗って早く家に帰りたいなあ。はあ、はあ」とって困っているシーン。でもそこに何と1人の若者が現れ、「あちょっとごめんなさい」とって電車の中に入って、ググググッと自分の前のところにスペースを空けてその女の人にウィンクとかして「空いたよ」とみたいに教えて、女の方も「あ!ありがとうございます」とタタタタって入ってプ

シューって(扉が閉まる gesture)。それからその2人は恋に落ちてくんだろうな。

第4刺激 あーこれ何にも思い浮かばないなあ、何だろうこれは。男1人女1人が暗闇の中を人目を避けるように歩いて行き、古い洋館の前で立ち止まり、扉を開け、その中へ入って行った。中に入ってから鍵を掛けて。それしかその2人の背景思い浮かばないなあ・・女の職業は水商売、男の仕事は大学教授、許されぬ2人。許されぬけれど、それが余計2人の愛を燃え上がらせる。その水商売の女は実は大金持ちのお嬢様だった。でもその父親が汚職とかで捕まってその家を出ることになって、貧乏で惨めな生活。その流れで水商売へ。つまりその古い洋館は、そのお嬢様にとって実は思い出の、昔まだ家族が幸せだった頃過ごした家。それから何十年と誰も住んでいないから、その巷ではお化け屋敷と言われているが、その水商売の女にとってはかけがえのない家。それを陰で支えた大学教授。大学教授は逆に、幼い頃はすごい貧乏で、母子家庭で、辛い生活を送ってたんだけど、お嬢様の女の人は偏見の目で見ないで唯一接してくれた女の人。2人は惹かれ合う、そして支え合う、そしてその思い出の洋館へ行く。〈この後はどうなりますか?〉この後洋館に入って思い出の品々を埃被りながらも見つけて、水商売の女はそのときだけは子どもの頃に戻ってポロポロ泣く訳で、一緒に大学教授もポロポロ泣く訳ですよ。でも人っていうのはそういう過去にすがってちゃダメな訳で、水商売という仕事であろうとその仕事に誇りを持って、「お前はお前らしく生きて行けよ。俺はどんな仕事やってもお前を支えるぞ」ってその教授が言う訳ですよ。

第5刺激 何だこれは一、すーごいやな絵が浮かびましたこれは。ここは地獄で、溶岩が煮え渡り、悪いことした人たちはそこでもう見るに堪えない悲惨な目に遭って。でもそこに、人を庇って人を殺してしまった男が、地獄へ連れて来られてしまう。その男はまったく悪い人じゃない。でも、その男の片思いしている女がいて、舞台は江戸時代で、身分が違うから結婚とか許されない。その片思いしてる女っていうのは、家が貧しいが故に、大金持ちのおじいちゃんちに無理やり嫁にやられる、その一家を救うために。でもそこで待っていたのは耐え難い生活で、姑のいびり、旦那はまったく妻を愛さず他に女をいっぱい作る、厳しい生活慣れない環境。毎晩その女は川の近くの柳の木の下で泣いていたと。それを陰から見るとこの男。「あの人を何とか救ってあげたい。僕には何もできない」。ある日、女とその大金持ちの旦那が歩いているときに、相変わらずその女はひどい仕打ちを受けて殴られてたと。さすがにあの姿には耐えられなくて、男は走って行ってその旦那を「止めろ!」って突き飛ばした。その先に大きな石があって、その男は頭にぶつけてしまって死んでしまったと。それで捕まってしまい、死刑になって縛り首で殺されて地獄に行って、悲惨な光景が待っていたと。その姿に絶望しつつ、自分はそれでもその女の人のことを恨まない。「俺は自分で信じた道を進んだから後悔はない。たとえこんな状況にしようとも俺は自分の心までは穢されないぞ」っていうふうにも思ってる。この後はやっぱり、こういう人には仏様が見ているもので、危うく溶岩のグツグツの中に入れられそうになったところで、仏様がサッと救ってくれるんですよ。で、天国へ行く、極楽へ行く。

第6刺激 これは一人娘が嫁に行く日の話で、娘は今、ちょっと古い感じのとこだから白無垢で、顔真っ白に塗って白粉して化粧して、今からお嫁に行くところなんです。でも、お母さんもだけとお

父さんが頑固親父で、そういう父親だったんだけど「いいお父さんだったな」って思い出して泣いちゃうんですよ。着付けしてた人が、「あらあら泣いたら白粉が落ちちゃうわよ」ってこう（涙を拭く gesture）。これからお嫁に行って、その前に最後にお父さんと話して、今までの感謝の言葉と「これからは私はあなたの娘ですよ」みたいなこと言ってお嫁に行くんです。そんな家から家へ、ちょっと昔の感じの、嫁入りの感じですよ。父親も頑固でずっと結婚は反対してたんだけど、そこで「お前は俺の娘だ。何かあったらいつでも帰ってこい」っていうふうに餞の言葉を言う訳です。そういうシーンです。

第7刺激 これは自分が今母親の胎内にいるイメージがすごかったです。自分というか主人公というか。視界は赤くて、でもすごい守られている感じと、温かくて、ちょうどいいお風呂に浸かっているような感じの気分です。心臓の鼓動が聞こえるんだけど、その鼓動でお腹の中の子はすやすや眠れるし、心穏やかにいれます。全然話になってないですけど、それしか思い浮かばなかったですね。その後、無事に生まれました（笑）、そんなイメージがしました。＜その前とかはありますか？＞その赤ちゃんは、すごく愛し合った仲の良い夫婦、真面目で誠実で優しく、お互いにお互いを尊重する、すごくいい2人で。その2人の間にやっと生まれた最初の子で、だからこそ2人にとって喜びはひとしおだし、その子に対する愛情もとてつもなく深いものがあります。夫婦にとってその子は宝以上の宝であって、そういう母親の愛情が自然と赤ちゃんを包み込んでいる。スヤスヤと赤ん坊は寝るし、落ち着いて。

第8刺激 いつもは仕事で忙しい父親が、子どもの夏休みに合わせて休暇を取ってくれて、父親はあまり子どもと遊ばない、仕事が忙しくて遊べなかったんだけど、今回だけは全然ちがくて、今長男と父親の2人で虫取りをしているんです。子どもはそんな虫とかも触ったこともないから捕まえ方も分かんないんだけど、お父さんは子どもの頃いっぱい虫を捕まえてたから、いっぱい虫を捕まえるんです。子どもは「お父さんすごいなー」っていうし、お父さんは「子どもの頃はな」って子どもの頃の話聞かせてくれるんですよ。今まで仕事しかしてないイメージのお父さんだったから、その子はお父さんとの距離感を縮めて捉えられるし、親子の距離はすごい縮まる。父親と息子が協力してやっとセミを捕まえた。カブトムシも捕まえた。見たことのない虫も捕まえた。クワガタとカブトを戦わせるのをすごい2人で応援して、本気になって楽しんでた。夏休みの、井上陽水がBGMで歌ってるような、そんな息子の少年時代の良い風景で。お父さんいつもスーツしか着てないのに、今日はランニングシャツに短パンに虫の網なんか持って、全然いつもと違う格好で、子どもも真っ黒に日焼けして、肩は皮むけて「いてえよー」みたいになって（笑）。その後父親と息子が久しぶりに一緒にお風呂入って、そこでも良い話をするし、男同士で「好きな女の子はできたか？言えよ、言ってみろよー」、「実はね」っていうすごい良い父親と息子の風景が思い浮かびました。

Ⅳ 考察

1 各参加者の反応の特徴

本研究で取り上げた内向・情緒不安定タイプ者は「孤独で神経質な人」であり、無力感や自信のなさ、自己憐憫、悲観なども特徴とされている(村上・村上, 2001)。以下では、内向・情緒不安定タイプ者の反応の特徴について、松川(2011, 2012)による刺激の性質(表8)や諸指標の出現傾向(表9, 10)を参照しながら考察していく。

(1)実験1における内向・情緒不安定タイプ者の反応の特徴

1) 参加者①男性

第1刺激では、大学生がもう1人のレポートを写して期限直前に提出することができたという物語が語られた。対人関係は表面的な印象を受け、2人は繰り返してレポートを写させてもらう依存関係だが、そのことに対する感情等は描写されなかった。また、語り方は一般的な様式であるが、小さな声で語り、これ以降の刺激においても同様であった。刺激中の怪しい雰囲気には言及されなかったが、物語には反映されている印象を受ける。

第2刺激では、きれいな葉っぱを家でコレクションする娘を、家の中が汚れてしまうからと怒る母親の物語が語られた。2人はお互いに自分の気持ちを分かっしてほしいと思っているが通じ合わないままであり、気持ちが通じ合っている母子関係イメージが薄いようであった。やや潔癖な母親イメージも伺われる。刺激の取り込み方や物語の語り方は一般的であった。

第3刺激では、2人の男女が雨の中駆け落ちし、そのとき女性は半分躊躇しているが、その後2人で幸せに暮らすという物語が語られた。背景となる2人の関係性などには触れられず、親もほんの少し触れられる程度であった。しかし、よく語られる「これから2人は他害行為をする」という設定ではなく、今の環境、特に親元から離れようとする設定になっており、親子関係における不和が推測される。その後の苦労や幸せに暮らすまでの過程にも触れられず、物語はやや表面的に語られた。刺激の取り込み方は一般的であった。

第4刺激では、きょうだいの中で仲間外れになり、父親にも分かってもらえなくて悲しくて泣いてしまう物語が語られた。母親は登場しないが、1人だけ取り残される非常に孤独で悲しい家族関係や、自分の気持ちを察して助けてくれずにすれ違う父子関係が伺われる。言わないでいる気持ちが比較的多く、「何で自分ばかり」と自己を憐れむ気持ちも語られた。また、背景で遊んでいる子どもたちの声も取り込み、父子の二者関係だけでなく三者関係にも触れ、子どもや父親に同一化して語られたことから、この刺激は本参加者にとって親和性があった可能性がある。

第5刺激では、ペットが死んで気に病んでいる女性をもう1人が慰めている物語が語られた。慰めている女性の電話での明るい口調は電話の相手への配慮とされ、慰められている女性の疑念も小さくなり、2人の関係は肯定的なままであった。女性が抱えている辛いことも対人関係ではなくペットに置き換えられて軽くなっている印象があり、防衛された上での肯定的関係である可能性がある。また、ペットを亡くした女性に同一化して話され、刺激の取り込み方は一般的であった。

第6刺激では、第1刺激でレポートを丸写しして提出したことがばれ、連帯責任でレポートを貸し

表8 各刺激の印象評定と音響分析の平均値と標準偏差(松川, 2011)

刺激	印象評定					音の長さ (seconds)	音の大きさ (dB)		音の高さ (Hz)		
	I 肯定的 情緒性	II 力動性	III 簡明性	IV 異質性	V 空間性		平均	最大値	平均	最小値	最大値
音声 刺激	3.25▽ (0.82)	3.56 (0.72)	3.75▲ (0.73)	2.63▽ (0.95)	3.80▲ (0.84)	17.67 (7.74)	72.67 (2.82)	83.63 (3.48)	236.51 (83.83)	105.98 (52.98)	477.23 (134.21)
1	3.36 (0.82)	3.57 (0.67)	4.03▲ (0.63)	3.24▽ (0.89)	3.32 (0.73)	10.73	70.85 (9.95)	80.47	147.37 (83.10)	80.84	563.63
2	3.44 (0.76)	3.58 (0.66)	4.40▲ (0.55)	1.96▽ (0.63)	3.77▲ (0.75)	14.95	75.09 (11.03)	88.82	258.43 (60.08)	92.64	450.68
3	2.54▽ (0.56)	4.11▲ (0.60)	3.60 (0.66)	3.67 (0.78)	3.90▲ (0.73)	14.77	74.88 (7.08)	88.09	173.67 (78.11)	87.06	513.49
4	3.33 (0.72)	3.14▽ (0.55)	3.36 (0.67)	2.33▽ (0.86)	4.24▲ (0.77)	15.98	69.76 (9.47)	84.73	264.49 (173.37)	72.22	633.23
5	3.52 (0.62)	3.48 (0.53)	3.17▽ (0.64)	2.21▽ (0.72)	4.03▲ (0.84)	33.92	69.47 (5.52)	78.89	259.24 (86.65)	84.16	504.41
6	2.54▽ (0.56)	4.35▲ (0.51)	4.19▲ (0.74)	2.80▽ (0.78)	3.11▽ (0.63)	12.45	73.14 (12.84)	82.09	145.89 (28.34)	81.88	229.10
7	3.29 (0.78)	3.19▽ (0.61)	3.41 (0.49)	2.92▽ (0.71)	4.21▲ (0.84)	24.58	77.16 (8.42)	83.61	401.69 (111.91)	233.20	583.07
8	3.99▲ (0.60)	3.02▽ (0.50)	3.81▲ (0.46)	1.90▽ (0.60)	3.85▲ (0.75)	13.98	71.03 (9.02)	82.31	241.31 (59.81)	115.85	340.24
非音声 刺激	3.27▽ (0.98)	3.09▽ (0.87)	3.38▽ (0.94)	3.12▽ (1.21)	4.03▲ (0.96)	29.66 (0.31)	63.54 (11.31)	77.22 (8.89)	260.72 (134.71)	104.46 (54.36)	417.23 (178.86)
1	3.55 (0.56)	3.80▲ (0.58)	2.89▽ (0.56)	2.05▽ (0.68)	4.32▲ (0.83)	29.44	64.40 (4.57)	79.62	152.82 (108.27)	74.57	485.52
2	2.59▽ (0.56)	3.31▽ (0.69)	3.22▽ (0.79)	3.85▲ (1.02)	3.71▲ (0.76)	29.35	55.13 (5.82)	77.51	99.34 (4.37)	75.96	146.23
3	2.69▽ (0.58)	3.18▽ (0.47)	2.69▽ (0.66)	3.05▽ (1.00)	3.78▲ (0.81)	29.70	69.29 (5.34)	77.61	211.16 (76.43)	77.72	307.61
4	2.55▽ (0.61)	3.72▲ (0.61)	4.09▲ (0.68)	3.33 (0.98)	3.83▲ (0.88)	30.00	57.79 (6.55)	79.59	334.38 (140.90)	85.16	600.37
5	2.74▽ (0.79)	3.48 (0.78)	2.80▽ (0.70)	4.15▲ (1.11)	4.59▲ (0.72)	29.84	79.23 (4.05)	85.77	410.25 (203.47)	74.98	600.52
6	3.43 (0.61)	2.73▽ (0.64)	2.89▽ (0.77)	3.67 (0.96)	3.23▽ (0.70)	30.00	43.32 (5.87)	57.90	320.92 (156.15)	148.78	464.26
7	3.75▲ (0.75)	2.56▽ (0.80)	4.29▲ (0.69)	3.13▽ (1.01)	3.70 (0.86)	29.14	73.41 (8.71)	86.24	112.86 (32.01)	74.95	194.40
8	4.90▲ (0.47)	1.96▽ (0.53)	4.22▲ (0.66)	1.77▽ (0.57)	5.09▲ (0.71)	29.78	65.78 (3.93)	73.55	444.04 (101.39)	223.57	538.92

注1 括弧内は標準偏差である

注2 印象評定に関して、平均が中点(3.5)に比して有意に大きかったものは▲、有意に小さかったものは▽で示している

注3 フェイドイン・フェイドアウトしている刺激が多いため、「音の大きさ」に関しては最小値を省略している

表9 音声刺激における各指標の出現率と平均値(松川, 2012)

APT 指標	8刺激 全体	各 刺 激							
		1	2	3	4	5	6	7	8
自己の内界に向ける関心	55.0	30.0	68.3	60.0	76.7	55.0	60.0	43.3	46.7
自己に向ける感情(言及)	48.1	73.3	53.3	58.3	43.3	28.3	71.7	35.0	21.7
自己に向ける感情(両価)	0.6	1.7	0.0	1.7	0.0	1.7	0.0	0.0	0.0
他者に向ける感情(言及)	97.7	90.0	100.0	96.7	100.0	100.0	98.3	100.0	96.7
他者に向ける感情(両価)	7.9	1.7	3.3	1.7	13.3	3.3	11.7	25.0	3.3
父親(的人物)に向ける感情(言及)	19.4	0.0	5.0	8.3	88.3	1.7	31.7	16.7	3.3
父親(的人物)に向ける感情(両価)	0.4	0.0	0.0	0.0	1.7	0.0	1.7	0.0	0.0
母親(的人物)に向ける感情(言及)	16.5	0.0	100.0	5.0	20.0	1.7	1.7	16.7	3.3
母親(的人物)に向ける感情(両価)	0.2	0.0	1.7	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
同性に向ける感情(言及)	41.9	38.3	1.7	81.7	1.7	55.0	40.0	55.0	61.7
同性に向ける感情(両価)	0.2	1.7	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
異性に向ける感情(言及)	38.5	26.7	3.3	83.3	8.3	56.7	33.3	35.0	61.7
異性に向ける感情(両価)	0.2	1.7	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
刺激外の人物の導入	33.1	21.7	30.0	28.3	45.0	51.7	48.3	28.3	11.7
導入人物の性質(言及)	31.9	21.7	28.3	26.7	45.0	50.0	43.3	28.3	11.7
導入人物の性質(両価)	0.4	0.0	1.7	0.0	0.0	0.0	1.7	0.0	0.0
標準的な年齢設定からのずれ	14.4	0.0	8.3	21.7	5.0	6.7	33.3	21.7	18.3
標準的な性別設定からのずれ	8.5	0.0	28.3	1.7	28.3	0.0	0.0	10.0	0.0
独特な人物設定	42.3	43.3	31.7	38.3	43.3	40.0	85.0	28.3	28.3
背景音に対する独特な意味づけ	24.8	21.7	5.0	33.3	65.0	8.3	20.0	35.0	10.0
背景音に対する情緒的意味づけ(言及)	14.0	5.0	3.3	31.7	46.7	3.3	1.7	10.0	10.0
背景音に対する情緒的意味づけ(両価)	0.2	0.0	0.0	0.0	1.7	0.0	0.0	0.0	0.0
結末の性質(両価)	2.9	1.7	1.7	5.0	3.3	3.3	3.3	1.7	3.3
攻撃的内容	15.8	6.7	21.7	20.0	18.3	8.3	33.3	13.3	5.0
自己言及	2.9	1.7	3.3	3.3	1.7	8.3	3.3	1.7	0.0
主観的印象	7.7	16.7	3.3	8.3	5.0	6.7	11.7	6.7	3.3
語りの様式(移入形式)	77.3	61.7	85.0	81.7	81.7	81.7	81.7	76.7	68.3
語りの様式(会話形式)	7.7	0.0	6.7	10.0	20.0	10.0	3.3	8.3	3.3
語りの様式(物語形式)	4.0	1.7	5.0	3.3	5.0	5.0	5.0	3.3	3.3
複数の物語	6.9	6.7	5.0	8.3	13.3	3.3	3.3	6.7	8.3
微小部分要素の取り込み	1.0	—	3.3	—	—	1.7	—	0.0	3.3
部分要素に対する標準的意味づけからのずれ	3.5	3.3	0.0	1.7	0.0	6.7	5.0	8.3	3.3
登場人物の独特な位置関係	3.3	0.0	0.0	0.0	1.7	6.7	0.0	1.7	16.7
空間の追加/区切	11.7	5.0	11.7	25.0	11.7	3.3	10.0	21.7	5.0
自己に向ける感情(性質)	0.02	0.57	0.00	-0.20	0.00	-0.12	-0.23	-0.10	0.08
	(0.68)	(0.55)	(0.57)	(0.63)	(0.57)	(0.70)	(0.68)	(0.62)	(0.76)
対人関係に向ける関心	0.13	-0.03	0.18	0.23	0.32	0.05	0.23	0.03	0.00
	(0.49)	(0.49)	(0.39)	(0.46)	(0.54)	(0.43)	(0.56)	(0.45)	(0.52)
他者に向ける感情(性質)	-0.15	0.31	-0.50	-0.29	-0.24	-0.53	-0.41	0.15	0.34
	(0.79)	(0.72)	(0.68)	(0.62)	(0.88)	(0.72)	(0.70)	(0.73)	(0.71)
父親(的人物)に向ける感情(性質)	-0.15	—	0.33	-0.40	-0.06	0.00	-0.11	-0.60	-0.50
	(0.79)	—	(0.58)	(0.55)	(0.86)	—	(0.66)	(0.70)	(0.71)
母親(的人物)に向ける感情(性質)	-0.34	—	-0.33	-0.33	-0.08	0.00	0.00	-0.60	-0.50
	(0.66)	—	(0.63)	(0.58)	(0.79)	—	—	(0.70)	(0.71)
同性に向ける感情(性質)	0.01	0.17	0.00	0.02	0.00	-0.52	-0.13	0.42	0.08
	(0.65)	(0.72)	—	(0.48)	—	(0.71)	(0.61)	(0.66)	(0.43)
異性に向ける感情(性質)	-0.08	0.06	0.00	-0.14	-0.20	-0.53	0.00	0.29	0.14
	(0.58)	(0.57)	(0.00)	(0.57)	(0.84)	(0.61)	(0.46)	(0.46)	(0.42)
導入人物の性質(性質)	-0.24	-0.31	0.00	-0.50	-0.04	-0.30	-0.23	-0.59	0.29
	(0.71)	(0.63)	(0.61)	(0.52)	(0.76)	(0.75)	(0.71)	(0.71)	(0.76)
背景音に対する情緒的意味づけ(性質)	-0.31	0.33	0.00	-0.63	-0.14	-0.50	0.00	-0.33	-0.33
	(0.63)	(0.58)	(0.00)	(0.50)	(0.65)	(0.71)	—	(0.82)	(0.52)
結末の性質(性質)	0.07	0.22	-0.12	-0.15	0.40	-0.27	-0.08	0.48	0.10
	(0.72)	(0.72)	(0.58)	(0.68)	(0.72)	(0.69)	(0.83)	(0.65)	(0.54)
初発反応時間(秒)	5.89	5.52	7.25	9.33	3.63	6.75	7.28	4.05	3.30
	(11.85)	(8.03)	(16.64)	(9.86)	(4.77)	(23.15)	(8.26)	(4.71)	(4.48)
刺激の追加提示回数	0.01	0.02	0.00	0.03	0.03	0.00	0.00	0.00	0.02
	(0.11)	(0.13)	(0.00)	(0.18)	(0.18)	(0.00)	(0.00)	(0.00)	(0.13)

表10 非音声刺激における各指標の出現率と平均値(松川, 2012)

APT 指標	8刺激 全体	各刺激								
		1	2	3	4	5	6	7	8	
内容面	自己の内界に向ける関心	50.4	30.0	41.7	65.0	55.0	51.7	56.7	51.7	51.7
	自己に向ける感情(言及)	24.2	11.7	25.0	31.7	35.0	18.3	23.3	41.7	6.7
	自己に向ける感情(両価)	1.9	1.7	0.0	1.7	1.7	3.3	3.3	3.3	0.0
	対人関係に向ける関心	46.0	58.3	38.3	26.7	68.3	30.0	45.0	50.0	51.7
	他者に向ける感情(言及)	69.4	71.7	50.0	58.3	71.7	71.7	71.7	66.7	93.3
	他者に向ける感情(両価)	4.0	1.7	1.7	1.7	3.3	10.0	3.3	0.0	10.0
	父親(的人物)に向ける感情(言及)	12.9	0.0	11.7	15.0	15.0	8.3	10.0	15.0	28.3
	父親(的人物)に向ける感情(両価)	0.4	0.0	1.7	0.0	1.7	0.0	0.0	0.0	0.0
	母親(的人物)に向ける感情(言及)	12.5	3.3	5.0	5.0	5.0	8.3	10.0	28.3	35.0
	母親(的人物)に向ける感情(両価)	0.2	1.7	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	刺激外の人物の導入	49.0	38.3	33.3	33.3	31.7	45.0	50.0	65.0	95.0
	導入人物を主人公とする物語	23.8	16.7	3.3	3.3	8.3	25.0	3.3	41.7	88.3
	導入人物の性質(言及)	37.3	26.7	33.3	30.0	26.7	30.0	48.3	46.7	56.7
	導入人物の性質(両価)	1.9	0.0	0.0	1.7	1.7	6.7	0.0	0.0	5.0
	動物の導入	3.8	1.7	1.7	3.3	0.0	6.7	1.7	0.0	15.0
	背景音に対する独特な意味づけ	33.1	20.0	20.0	41.7	21.7	61.7	23.3	20.0	56.7
	背景音に対する情緒的意味づけ(言及)	33.8	20.0	20.0	31.7	18.3	55.0	30.0	30.0	65.0
	背景音に対する情緒的意味づけ(両価)	1.7	0.0	0.0	0.0	1.7	3.3	1.7	0.0	6.7
	結末の性質(両価)	3.3	1.7	3.3	1.7	0.0	11.7	5.0	1.7	1.7
	攻撃的内容	8.1	1.7	13.3	1.7	13.3	20.0	5.0	6.7	3.3
自己言及	1.5	0.0	5.0	3.3	0.0	0.0	0.0	0.0	3.3	
主観的印象	10.2	11.7	13.3	10.0	8.3	18.3	10.0	5.0	5.0	
形式面	反応の失敗/拒否	2.3	8.3	0.0	1.7	3.3	1.7	0.0	1.7	1.7
	語りの様式(移入形式)	69.6	70.0	80.0	70.0	65.0	66.7	78.3	53.3	73.3
	語りの様式(会話形式)	2.7	3.3	5.0	1.7	3.3	1.7	0.0	0.0	6.7
	語りの様式(物語形式)	5.2	8.3	5.0	3.3	6.7	5.0	5.0	1.7	6.7
	複数の物語	6.0	3.3	8.3	10.0	6.7	1.7	3.3	13.3	1.7
認知面	微小部分要素の取り込み	7.9	8.3	5.0	13.3	6.7	6.7	8.3	1.7	13.3
	部分要素に対する標準的意味づけからのずれ	5.8	0.0	16.7	6.7	5.0	10.0	5.0	1.7	1.7
	触覚情報の性質(言及)	30.0	5.0	91.7	5.0	1.7	5.0	98.3	10.0	23.3
触覚情報の性質(両価)	2.7	0.0	3.3	0.0	0.0	0.0	16.7	1.7	0.0	
内容面	自己に向ける感情(性質)	-0.05 (0.83)	-0.29 (0.76)	0.33 (0.82)	-0.53 (0.61)	-0.19 (0.81)	-0.45 (0.69)	-0.14 (0.95)	0.36 (0.76)	0.75 (0.50)
	他者に向ける感情(性質)	0.02 (0.79)	0.26 (0.62)	-0.27 (0.69)	-0.51 (0.56)	-0.14 (0.60)	-0.44 (0.77)	-0.05 (0.84)	0.18 (0.81)	0.67 (0.54)
	父親(的人物)に向ける感情(性質)	0.03 (0.72)	— (—)	-0.14 (0.69)	-0.56 (0.88)	-0.22 (0.67)	-0.20 (0.84)	0.67 (0.52)	0.00 (0.50)	0.41 (0.51)
	母親(的人物)に向ける感情(性質)	0.18 (0.68)	0.00 (0.00)	-0.33 (0.58)	-0.33 (1.15)	-0.67 (0.58)	0.20 (0.84)	0.17 (0.75)	0.53 (0.51)	0.19 (0.60)
	導入人物の性質(性質)	0.13 (0.70)	0.25 (0.68)	-0.25 (0.64)	-0.39 (0.78)	0.06 (0.44)	0.00 (0.59)	0.14 (0.74)	0.21 (0.63)	0.59 (0.56)
	背景音に対する情緒的意味づけ(性質)	-0.15 (0.83)	0.00 (0.60)	-0.33 (0.78)	-0.58 (0.61)	-0.45 (0.69)	-0.55 (0.71)	-0.50 (0.79)	-0.06 (0.94)	0.59 (0.59)
	結末の性質(性質)	0.11 (0.65)	0.20 (0.63)	0.07 (0.58)	-0.30 (0.72)	-0.10 (0.57)	0.00 (0.55)	0.22 (0.61)	0.38 (0.64)	0.45 (0.57)
形式面	初発反応時間(秒)	10.73 (15.74)	10.97 (10.21)	13.95 (16.96)	7.97 (10.66)	13.22 (18.37)	11.85 (19.71)	13.92 (21.13)	9.12 (14.56)	4.87 (6.93)
	刺激の追加提示回数	0.17 (0.38)	0.03 (0.18)	0.22 (0.42)	0.07 (0.25)	0.25 (0.44)	0.35 (0.52)	0.33 (0.48)	0.05 (0.22)	0.05 (0.22)
認知面	部分要素の取り込み	2.62 (1.46)	3.22 (1.04)	3.12 (0.74)	2.67 (0.77)	4.80 (1.16)	3.17 (1.34)	1.33 (0.54)	1.23 (0.46)	1.40 (0.67)
	触覚情報の性質(性質)	-0.19 (0.64)	-0.33 (0.58)	-0.13 (0.58)	-1.00 (0.00)	0.00 (—)	-1.00 (0.00)	-0.25 (0.63)	0.17 (0.98)	0.07 (0.62)

た人まで単位を落としてしまい、怒って絶交する物語が語られた。第1刺激で作られた物語の続きであり、両刺激中の話者の2人が同一人物である影響もあると思われるが、前の物語では語られなかった感情の部分がこの刺激に触発されて引き出されたとも考えられる。それは友人関係を断ち切るほど強い怒りで、怒られた方は受身的に申し訳なく思っていることが語られた。また、刺激中の怒られた方の訴えは取り込まれず、レポートを貸した方にやや同一化して語られた。こうした強い感情は情緒不安定タイプの特徴と考えられる。

第7刺激では、受験に失敗した女性2人が傷心旅行に行き、大きな海を前に自分たちの悩みを見つめ直す物語が語られた。2人の関係についてはほとんど触れられず、女性たちの悩みは対人関係ではなく自己価値感に関わるもので、死も意識に上るほどであった。本参加者はそれほど強く自己価値感を意識していると考えられる。また、2人のテンションの違いは取り込まれず、ほとんど同じ心境にあるとされ、ほぼ2人に同一化して語られた。このことも対人関係にあまり意識が向いていないことを示しているといえよう。

第8刺激では、学校に通う友人が三角関係にあり、そのうちの男女2人はお互いに好意を持っているがそのことを言えず、もう1人の女の子が男の子に告白してしまい、2人とも複雑な心境になる物語が語られた。お互いに好意を持っている2人は、それぞれその3人の誰かに気を遣って自分の気持ちの通りに行動することができなくなり悩んでいる。典型的な三角関係であり、本参加者も語りやすかったと考えられ、主に男の子に同一化して語り、刺激の取り込み方は一般的であった。

全体としては、特に親子関係で通じ合えない悲しみや悔しさが強く、男女関係や友達関係でもそうした通じ合えなさは感じており、たいていはやり過ごすことができるが、大きな問題が生じると一気に関係を断ち切ってしまう情緒的な激しさも持っているようであった。語り方は最初は声も物語も抑制される傾向があったが、APTに対する慣れや刺激に情緒的に揺さぶられることで、徐々に抑制が解けていった。

2) 参加者②女性

第1刺激では、会社の偉い人2人が裏取引や会社を思い通りにしようと悪事を働き、それがばれて捕まったり社長に見つかったりする物語が語られた。2人で悪事をしたのがばれて捕まるという物語の周辺的な設定について考えながら複数語っていき、人物設定や対人関係が複雑になっていった。刺激中の2人の人物はそれぞれの信念や考えがあって協力しており、深い信頼関係にはないようで、そのうちの1人は「昔からの苦労人だからこそ上昇志向が強すぎて悪いことをしてしまう」と合理化された。また、以降の刺激でも見られたが、物語を語ることへの不安を笑うことで中和する様子も見られた。刺激の取り込み方は一般的であった。

第2刺激では、野良猫に餌をあげた子が母親に止めるよう注意され、近所のおばあちゃんに猫を預かってもらう物語が語られた。母親は内心ではしょうがないと思っているが、母子の気持ちはすれ違ったままで、おばあちゃんという第3者がその子どもと猫を受け入れてくれた。よく語られる子どものいたずらを叱る物語に対し、猫に餌をあげることは子どもに対する母親の否定の程度は低まってもいる。こうしたことは母親との衝突を和らげるために行なわれていると考えられ、母子関

係における強い葛藤が推測される。また、刺激中の会話が屋内でされているのか屋外でされているのか明確でないなど、知覚された刺激自体の描写よりも刺激からの連想過程が優位で、母子の両方に同一化して語られた。前者は内向タイプ、後者は情緒不安定タイプの特徴と考えられる。

第3刺激では、女の子が自分らしくあるために一大決心をして、普段から見守ってくれている男の人に後押しされ、学校の先生にその決心を伝えに行く物語が語られた。男の人の応援はあるものの、周囲も自分の迷いも振り切って1人でがんばることが自分らしさにつながっている。ただ、本参加者が最初に言及している物語の方が一般的な反応であり、全体的に抽象的な内容が語られたことから、「悪いこと」や罪悪感を回避した可能性がある。また、背景の雨音は取り込まれず、特に男性の声掛けからの連想を中心に、女の子に同一化して語られた。

第4刺激では、父親が息子にスニーカーを買ってあげたがそれは時代遅れのもので、息子は気に入らなかったがそのことを父親に言うこともできず、嫌々ながらそのスニーカーを履く物語が語られた。父親は息子の気持ちを理解できず、息子も気持ちを言えず、父子はすれ違ったままだが、父子関係が悪い印象はあまり受けなかった。第2刺激のときと同様に、スニーカーが間に入った形で父子が直接衝突している訳ではないため、葛藤が軽減されている可能性もあるだろう。また、背景音は取り込まれず、父子の両方に同一化して語られた。

第5刺激では、長く付き合っていた彼氏と別れたショックでしばらく家に引きこもっていた女の子がようやく外に出てきて、もう1人の女の子が心配してその子の話を聞いている物語が語られた。女の子のショックやその後の内的過程に焦点が当てられ、よく語られる女性2人の中での葛藤には触れられず、むしろ相手の女の子が一番の心の支えになっていた。刺激中の電話での会話や飲食店の音はほとんど取り込まれず、2人の両方に同一化して語られた。

第6刺激では、バレー部のエースを庇って万引きなどの濡れ衣を被った男の子が顧問に怒られ背景にある事情から2人とも困っていたところ、エースの子も良心が痛み、顧問に謝る物語が語られた。この物語でも刺激中の2人の中にエースの子が入る形で直接的な衝突は避けられていた。そうした設定により展開が強引になった部分もあると思われるが、男の子は部のことを思って自主的に濡れ衣を被っており、自己犠牲的な傾向が伺われた。また、登場人物3人ともに同一化して語られ、連想による語りが多く、刺激の取り込みは漠然とした印象だった。

第7刺激では、家のことや受験勉強がうまくいっていない女の子が友達に誘われて気分転換に出かけ、その後も気分は晴れないままだが、次第に自分のやりたいことが決まって行く物語が語られた。友達関係や家族関係には少し触れられる程度で、進路に関わる自己の悩みが中心であった。また、刺激中の電車の音は取り込まれず、海に行く話も曖昧なままであったことから、進路に関わる意識が強いことが伺われ、その進路に悩む女の子に同一化して語られていた。

第8刺激では、3人で帰っているうちの1人の女の子が、もう1人の何でもできる女友達のことを羨ましく思いながら寂しく帰って行くが、その後絵や合唱などで力を発揮する物語が語られた。対人関係についてはあまり触れられず、劣等感や自分らしい活躍の場を求める気持ちが中心であった。刺激の取り込み方は一般的で、1人で帰って行く女の子に同一化して語られた。

全体としては、刺激をあまり取り込まず、連想を優位に働かせて物語を作る傾向が見られた。その中でも特に葛藤につながる刺激の要素を取り込まず、あるいは葛藤を軽減する物や人を導入することによって、肯定的な対人関係を語ろうとする傾向があった。家族関係では特に母親と分かり合うことができず、やはり直接的な衝突は避けられていた。自我同一性への強い関心も伺われた。また、特に最初の方では思考過程を言語化する傾向もあり、登場人物への同一化は多く、総じて反応時間が長かった。

(2)実験2における内向・情緒不安定タイプ者の反応の特徴

1) 参加者③男性

第1刺激では、戦争という個人の力では抗えないものによって引き裂かれた男女の、20年に渡る劇的な物語が語られた。普通の男女の待ち合せにはせず、以降の物語にも言えることだが、本参加者は意識的に他の人とは異なる特別な物語を作ろうとしている。物語中では、主人公と周囲の雑踏、つまり自己と周囲の人々や環境は互いに異質な存在であり、主人公の男性は自分にあまり自信がなく、女性との約束を心の支えにして生きている。こうした内容から、特別な存在であろうとするが自信がなく、周囲からの孤立感があり、親密な二者関係による支えを求めていることが伺える。また、刺激は参加者が導入人物としてその場にいるような感覚で取り込まれ、その人物に非常に強く同一化して演技的に語られた。こうした刺激との心的距離の縮小や演技性、情緒性の豊かさは、情緒不安定タイプの特徴と考えられる。

第2刺激では、最近彼氏ができた娘のことを心配する父親が、自室にいる娘と彼氏の様子をこっそり覗き込む物語が語られた。盗み見る・見られる関係に父子関係や男女関係が加わり、非常に緊張感のある物語となった。本刺激で語られることが多い「仕事帰りの疲労感や脱力感」とは非常に対照的で、うまく力が抜けず身構えた印象を受ける。母子関係に対して疎外感を覚える父親の存在から、三者関係にうまく入って行けない感覚があることも伺われる。また、刺激に対してすぐに情緒的に反応し、父親に非常に強く同一化して独白形式も交えて語られたのは、情緒不安定タイプの特徴と考えられる。換気扇の中という空間設定も特徴的であった。

第3刺激では、満員電車に乗れずに困っているか弱い女性を、通りすがりの男性が助ける物語が語られた。ため息をつく女性の悩みの対象が目の前の人々や環境に設定されており、本参加者の反応の中では相対的にシンプルな印象を受ける。本刺激では、後半に入って突然女性のため息という明確な情緒刺激が2回出現するため、それまでの連想過程が途切れてしまうことがあり、本参加者にとっても物語作成が難しかった可能性が考えられる。その女性の力ではどうすることもできない状況に見ず知らずの男性が助けに来てくれる展開から、援助・被援助的な対人関係イメージの強さが伺われる。また、本刺激においても刺激に対してすぐに情緒的に反応し、刺激中の女性と通りすがりの男性の両方に同一化して演技的に語られた。

第4刺激では、水商売をしている女性が、大学教授の男性と一緒に、昔住んでいた洋館に行き、過去に触れて涙する物語が語られた。2人はそれぞれの家族(特に父親)の事情に翻弄され苦勞してきたが、お互いの立場を超えて支え合って生きてきた。対人関係には身分などの隔りがあるものの、

それを超える強い情緒的つながりがある。こうした人物設定することで、「お化け屋敷」などの不気味な印象を中和しているようにも思われる。また、本刺激でも聞いてすぐに情緒的に反応を示していたが、これまでに比して人物にはあまり同一化せず、感情的な物語形式で語られた。屋内ではなく屋外の音とされたことも含め、不気味な印象を与える本刺激に対して心理的に距離を取っていると考えられる。

第5刺激では、江戸時代に、身分の違う片思いの女性に対してひどい仕打ちをする夫を殺してしまった男性が地獄に送られたが、仏に救われる物語が語られた。対人関係は一方的で、身分の違いという個人の力ではどうにもできないものによって阻害されている。女性に対する恨みは否定されているが、想起されたことからその存在が推測される。善悪がやや極端で、自分の潔白さを必死に守ろうとしている印象を受ける。歴史的背景や人物の事情を設定することで地獄の生々しさから心理的に距離を取っているように思われる。また、刺激に対してすぐに情緒的に反応を示し、刺激の要素はあまり詳細には取り込まず、人物にはあまり同一化せず、感情的な物語形式で語られたことから、刺激によって情緒的に揺さぶられながらも、刺激に対して距離を置いている様子が伺われる。

第6刺激では、嫁入りする娘が父親との思い出を振り返って涙を流し、最後に父親と親子の絆を確認して巣立っていく物語が語られた。母親はほとんど登場せず、父子のつながりの強さが伺われるが、やや歴史的背景を含み潔白なイメージで、現実感が薄まっているように感じられる。また、本刺激は単純で中性的であり心理的に距離を取る必要がなくなったためか、主に娘に同一化して語られていた。

第7刺激では、母親の胎内にいる赤ちゃんが心穏やかに眠る物語が語られた。8刺激の中で唯一自己の内的過程にも対人関係にも触れられず、実験者に聞かれて話された両親は理想化された印象であった。また、刺激を聞いたときには参加者が導入人物(胎児)として実際にその場にいるような感覚で取り込まれ、物語の失敗にもなりかかったが、その後は主に物語形式で語られた。

第8刺激では、いつもは仕事で忙しい父親が、夏休みに息子と虫取りをして遊ぶ物語が語られた。理想化された父子関係の中で、父親に対する尊敬や憧れ、同一化の欲求が伺われる。また、第7刺激からの流れを引きずっていたのか、物語形式を中心に、後半になると父子の会話も交えて語られた。

全体としては、男女関係や父子関係の物語が多く、特に男女関係ではお互いがお互いにとっての支えとなる対人関係イメージの強さが伺われた。相手が支えになってくれないと恨む気持ちも生じてくるようである。攻撃性や衝動性も高い印象であった。また、刺激に対してすぐに情緒的に反応することが多く、ドラマ仕立てに練られた物語を語ることも多く、総じて反応時間が長かった。

2 まとめと今後の課題

本研究では内向・情緒不安定タイプ者3名の APT 反応の特徴について検討した。その中でも、参加者②と参加者③は連想過程優位の個性的な物語を語り、登場人物に同一化して語ることが多く、総じて物語も反応時間も長い点で一致していた。連想過程の優位性は内向タイプの特徴と、人物へ

の強い同一化や演技性は情緒不安定タイプの特徴とそれぞれ重なっていると考えられる。また、このことは音声刺激と非音声刺激という差異を超えて反応に共通する部分がある可能性を示唆している。ただ、参加者②は刺激中の否定的要素を取り込まないでいく傾向があり、音声刺激が暗に要求している葛藤処理の過程を回避していたために、刺激差の影響が少なかった可能性もあり、今後、事例数を増やして確認する必要があるだろう。他方、参加者①は他の2名と異なり抑制的な語り方をしていた。この点については、今回採用した2ポイントコード以外のパーソナリティが影響している可能性があり、今後、抑制に関わるパーソナリティ・タイプにも着目して検討していく必要があるだろう。また、参加者①における自己価値感、参加者②における自我同一性、参加者③における依存的な対人関係への関心の強さを、内向・情緒不安定タイプ者の特徴とされる自信のなさの表現型と解釈することもできるかもしれないが、本研究のみで内向・情緒不安定タイプ者に特有の反応と判断するのは難しい。他のパーソナリティ・タイプや統制群との比較を通して、青年期心性などとの関連も吟味する必要があるだろう。

本研究では、鈴木(1997)のように、先行研究で明らかにされた刺激と反応の特徴を踏まえて、各刺激における反応解釈を積み重ね、繰り返し現れてくるテーマや、繰り返されなくても明らかに突出しているテーマから統合的解釈を行なうスタンスを取った。ここでその妥当性を議論することは難しいが、指標による数量的な分析データとの関連の検討ももちろん、こうした統合的解釈の妥当性について今後も慎重に吟味していく必要がある。

この他にも、本研究では刺激の提示方法や事例数による限界があり、今後、刺激の提示方法を統一し、事例数を増やして本研究における知見をより確かなものにしていく必要がある。また、外向性と情緒安定性の2ポイントコードにおける残りの3タイプとの比較研究も行なっていきたい。

【註】

- 1 この参加者の反応において読者に不快感を生じさせる恐れのある部分には、より穏やかな表現になるよう修正を加えている。

【文献】

- 馬場禮子 1997 心理療法と心理検査。日本評論社。
- 松川春樹 2007 聴覚投映法の研究—聴覚刺激の性質とパーソナリティ特性に着目して—。平成18年度東北大学大学院教育学研究科修士論文。
- 松川春樹 2009 聴覚投映法における刺激の性質に関する研究。平成20年度東北大学教育学研究科特定研究論文。
- 松川春樹 2011 聴覚投映法の刺激の特徴について。臨床心理相談室紀要9, 33-54。
- 松川春樹 2012 聴覚投映法における反応の特徴について。臨床心理相談室紀要10。
- 村上宣寛・村上千恵子 2001 主要5因子性格検査ハンドブック—性格測定の基礎から主要5因子の世界へ—。学芸図書。
- Skinner, B. F. 1936 The verbal summator and a method for the study of latent speech. *Journal of Psychology*,

2,71-107.

鈴木睦夫 1997 TATの世界一物語分析の実際。誠信書房。

坪内順子 1996 TATアナリシス—生きた人格診断。垣内出版。

A Study on the Response to Auditory Projective Technique

: In the case of Introversion-Neuroticism Types

Haruki MATSUKAWA

(Graduate Student, Graduate School of Education, Tohoku University)

I have studied about usefulness and possibility of Auditory Projective Technique (APT), which was invented by B. F. Skinner (1936), and now isn't used. In this study, it was examined qualitatively how the participants, classified into Introversion-Neuroticism type by Big Five-personality test, response to APT. 3 participants were asked to make stories associated with each auditory stimulus, with meaningful voice or without. Results suggest that Introversion-Neuroticism types make original stories by associating process rather than perceiving process, narrate stories with identifying characters, and stories and response time are very long. Because of this study's limits of method of presenting the stimuli and the number of participants, however, it is necessary to study the matter further.

Key words : auditory, projective technique, Big Five-personality test, Introversion-Neuroticism type

